結成20周年
新たな大躍進に向け出発！

動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番
99.7.7 No. 4987

結成二〇周年 動労千葉を支援する東京集会開催

七月三日、午後一時より、労働スクエア東京に於いて、『動労千葉結成二〇周年記念・動労千葉を支援する東京集会』が、一二〇名の結集で開催された。

まず、自治労横浜の庄山さんの司会で、開会のあいさつを行った。

続いて、動労千葉顧問弁護団より、葉山岳夫弁護士から「結成二〇周年を祝うというより、これからどう闘っていくかということだ。動労千葉は、国鉄闘争の最先端で闘っている。昨年一一月には全金港合同・全日建関西生コン支部と動労千葉の三者が集まって集会を開催した。われわれも『支援する会』を支えて闘います」と連帯のあいさつを述べた。

つづいて鈴木達夫弁護士より「五・二一集会を引継ぎ六・二四集会に八〇〇〇人結集した。情勢は厳しいがこれを引き受け、JR決戦に対峙することが、動労千葉を支援することにつながる。弁護団として共に闘います」と訴えられた。

引き続き、全金本山労組の中野書記次長は、「全金本山は来年二〇周年を迎える。ロックアウトに対して、徹底的に闘っている。われわれは闘いながら生きぬいて行く。共に闘いましょう」と決意を訴えた。

連帯の最後に結柴誠一杉並区議より「二〇年前、JR総連カクマルによって成された『分割・民営化』は、今日の戦争法案に繋がっている。労働者階級の解放を勝ちとるために共に闘います」と訴えた。

ここで東京東部労組と北富士忍草母の会より連帯のメッセージが紹介された。

ここから講演に移り、最初に一〇〇万人署名運動呼び掛け人で文芸評論家の中島誠さんから『新しい国家と労働運動』という講演から「支援する会の発起人になれと言われて軽い気持ちで引き受けた。動労千葉の物販活動は、全国に支援を訴えながら『情報』という材料でオルグを展開していく、それで全国ネットワークを創っていくということです。

昨年十一月に結成された三者共闘を発展させていかなければならない。労働組合は方針やイデオロギーが培われていかなければならない。その成果をわれわれがどうつちかっていくかが決定的である。参加された皆さんのご奮闘を期待しつつ講演を終ります」と、いつもの名調子であった。

続いて、動労千葉の中野委員長より『国鉄闘争の現局面と展望』という講演を請けた。

「動労千葉を長きにわたり物心両面から支えていただき、心から敬意を表します。国鉄闘争は昨年の五・二八反動判決以降、あらゆる労働争議に対してこれと同じ判決が言い渡されている。この判決は国家権力による決意表明だ。いままでの労働組合の闘いを全て否定したものだ。これに対して国労は「宮坂補強案」を提案した。これは大会決定にはならなかった。ここで全国二〇〇を超える支部・分会は、補強案撤回になった。しかし宮坂チャレンジグループにより継続審議というかたちになり、三月十八日の臨時大会で国鉄改革法承認を警察権力に守られて強行採決された。そこで政府は何をやってきたか。それは国労の完全破壊だ。国労は原点に帰らなければだめ。しかし国労には、いまでも多くの支援が寄せられる。これの特徴は、物販を買うのはほとんど連合傘下の組合だということ。重要なのは、敵の弱点を見極めること、敵は何一つうまく行ってない。鉄道会社として成り立ってない。千葉には動労千葉がいるから大丈夫だ（笑）。他では列車がまともに動かない。コンピュウターでは安全は守れない。労使関係もズタズタだ。ここにきてJR総連がJR東日本とだけと結託してあらゆる不当労働行為をやった。しかしJR総連もここでおかしくなってきた。幹部を更迭し、入れ換えをやった。これはJR当局との蜜月がおかしくなった。この状況に対して国労幹部の考えがわからない。時代認識が欠けている。戦争をやろうとしている自民党にすりよっている場合じゃない。国労がガイドライン反対をやり、組対法・盗聴法反対をやれば局面は変わる。それが判ってない。だから国労を徹底的に解体しようとしているんです。広島での「日の丸・君が世」で燃え上がっている時に連帯して闘争をやればいいんです。連合はまだまだです。ここで国労が潰されなければわれわれの勝ちです。八月の国労全国大会が勝負だ。動労千葉も『大失業と戦争の時代に通用する新しい動労千葉を創ろう』をスローガンとしてJR体制を打倒すること、これをやらなければいけない。これからも共に闘うことを明らかにして挨拶を終ります」と、これからの労働運動の在り方、総団結して闘えば勝てるということを指し示した。

続いて、事務局より支援する会運動の経過と方針が打ち出され、その後討論に移り、東交婦人部の兼杉さんより『東交でも二〇〇七年に民営化されようとしている。国労・動労千葉のように負けずに闘って行きます』と決意を述べた。つづいて動労水戸の国分新委員長より『当たり前のことを当たり前に言える職場にする、情勢は激動している。これからも動労千葉と共に闘います』と共闘の決意表明した。そして国労の仲間より『全国大会には、全国から代議員に起ちます。八月全国大会に決起します』と、断固たる決意を述べた。ここで田中書記長を先頭に動労千葉二〇名が登壇し、新たに決意をかためた。ここで司会の庄山さんの閉会の挨拶があり、最後に動労千葉布施福委員長の団結ガンバロウで集会は、大成功の内に終了した。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよ